

狂言田舎孫

冬

48  
遠 13  
1749  
4止



門へ遠18  
1749  
47



さうまらふく多<sup>ハ</sup>元<sup>ノ</sup>糸<sup>カ</sup>分<sup>ケ</sup>一<sup>ハ</sup>元<sup>ノ</sup>糸<sup>カ</sup>。コレ<sup>ノ</sup>主<sup>ガ</sup>鉄<sup>ノ</sup>糸<sup>ノ</sup>取<sup>レ</sup>て六<sup>元</sup>

極<sup>ニ</sup>こ<sup>レ</sup>悪<sup>ク</sup>口<sup>ハ</sup>お<sup>ヘ</sup>ぢ<sup>ラ</sup>。ホ<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>口<sup>ノ</sup>ヨ<sup>リ</sup>さ<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>。ゴ<sup>ウ</sup>ら<sup>カ</sup>

女<sup>ガ</sup>者<sup>ガ</sup>め<sup>も</sup>氣<sup>ニ</sup>あ<sup>ラ</sup>る<sup>コト</sup>ハ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>氣<sup>ハ</sup>あ<sup>ラ</sup>る<sup>リ</sup>。

わ<sup>ッ</sup>〜<sup>〜</sup>ゆ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ラ</sup>る<sup>ト</sup>あ<sup>リ</sup>が<sup>シ</sup>。そ<sup>レ</sup>で

り<sup>カ</sup>ふ<sup>ト</sup>メ<sup>マ</sup>せ<sup>ウ</sup>。わ<sup>ッ</sup>ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ラ</sup>る<sup>ニ</sup>ヤ<sup>ン</sup>。い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>。い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>。

さ<sup>レ</sup>ど<sup>レ</sup>  
ニ<sup>ハ</sup>ヤ<sup>ン</sup>。

○ 勧進元乃光景

今<sup>レ</sup>宵<sup>ハ</sup>来<sup>レ</sup>込<sup>ノ</sup>の大<sup>ノ</sup>酒<sup>ノ</sup>宴<sup>ト</sup>と<sup>シ</sup>て。勧<sup>レ</sup>進<sup>元</sup>ノ<sup>ノ</sup>廣<sup>サ</sup>望<sup>ミ</sup>お<sup>シ</sup>ま<sup>ス</sup>

太夫三絃人形の圓く大判形子居あしびて祝  
 儀の少謡一さうの舞終るまば盃盃狼藉上と下  
 とこぬくまを奉承のお後の狼吠嬉もおろそ  
 けする折しも中のるよ居る世話人あまの  
 の宿割や五伴一「コレく同助どん今ぐと頭取  
 お後の志くく六役者伴一同よく平らて居  
 替古の朝人あ悪いあふるまご太夫あ太夫人形ハ  
 人形三絃ハ三絃と部屋を六別くくして居る

西をの宿小居いとき「ありのやとそりや  
 るまご。控千どんもモ。長太どんも換合の上で殺屋  
 引のつり子宿割さ極くるまご今更ハ交替さ  
 らバひんか物どんご殺屋とまる者も氣中らく  
 ぶあごの勸進元どれ真教寺どれ四十八人あふ人が  
 一同子まる答が後。ガガけあときあ者伎役者の時  
 知どらやあらんやあの時あまの甲びう摺ごチヨボ  
 と替るたままをき後のたままと宗ある遠ふきて一



主等が生れたぬ時代ト。權権「マサ。此こか二本野郎にほんやろうの時ときを流ながれぬぬ咽うでで。トトかろりの侍侍へへササクク。室むろ早はや酒さけも  
 よろをらの飲のんんべべいい。穀こく屋や。イいおおつつををどどめめろろ。五五今いま  
 十十分ぶん。頭とうがが。權権「ママつつきき。そそろろやや早はや海うみどどくく。穀こく屋や割わり  
 のの帳ちやう面めんももけけ通とううささ。アア。盲めくら房ぼうの方かたががよよすすめめのの三さん弦げん  
 ううのの。權権「ささううよよ。トト。ささううでもでも目め明あががみみやや三さん弦げんのの書かきがが  
 三さんつつううんんべべいい。同どう。観くわん音おん寺じささるるのの鐘かね。モモノノ。りりんんでで。左ひだりよよににああるる池いけささ  
 書かきてて候こうがが悪わるいい。二に弦げんもも目め明あととれればば眼まなこ入いりり書かきててららるる

んんべべいい。五五「ららののししはは。トト。大だい夫ふ屋やハハのの肥ひここ  
 ががよよううののシシ。權権「ママササ。大だい夫ふ屋やのの好このががとと三さん弦げん屋やのの上うののおお  
 とととと二に人にんおおくくががへへ登のぼるるつつののつつ。權権「十じゅうととんんそそろろやや  
 主しゅがが好このままよよいいととんんべべいいどど眼まなこつつままがが生なままててややららすす。ららろろ  
 へへ。ハハテテ権けん十じゅう一いち人にんががややららききのの世よ話わアア。ああるるハハはは権けんがが自みづからら  
 由よしつつくくううみみぞぞららんんたた。トト。ままままららハハアア。権けん十じゅう一いち人にんのの目め。トト。盲めくら  
 屋やのの宿しゆくととああるる者ものハハ平へい等とう。トト。甲か摺すりささ能のうくく割わりててそそ  
 ちちららししのの。權権「ハハテテののまま。権けん十じゅう一いち人にんままままららせせてておおききららせせててアア。





トのふらちのふらちの雑物をやう。推おし それよ其のふらち。サア早はやく

おら灯色あかりいろく。たのまらち四五十年あひの推おし 刀懸あきかけふチ。サアく、婦等あんなら

ハある先まへよがうまら。コレが肉にくへよく、借言かえりごとしてこれ

ろさそとで、お役者やくざくらま支しあふがようくふとでめでさく。

「後あとのてまのやのせう。ニヤニヤ。シヤン。〇シヤン。」

「これより惣屋申そうやまのうらの雑物ざつぶつをわけて分わけて、運はなの者の腐くさまひらのひ、業肉あふくようちうれ、そのかきまぐ、贅ぜいをいぬ。其そののく

のようちひ、たのまらちあうりして、  
あきまらあうり、いふのうら、

○田舎芝居いんやしばの細渡こいなせの光景あかりさげ

田舎芝居いんやしばの地所ぢじハ勸進元くせんもとの家いへよりよとて三十町も

隔ひらうべ、其国そのくにハ仍いて遠近えんてんの差別さべつハ、あれど、既出あらかひのじ。

惣屋申そうやまのうら樂屋がくやへの打柝うたがしをなら、尻端折しつたんせ、半合羽はんがふ子

細身こしんの一腰いちこし申ま貫草履くわんぞうり板金剛草鞋いたごうぞうりあんど、おのひく

の形容けいよう高独たかどくのそと、あ、それへどの氣散きさんトあるま。

く、あ、細ここ、これ吉日きちじつと。世話人せわびとと先に立たわとよ

折はす、尾お風かぜ呂ろ桶づく息いきもさ、く、山道やまみちと空うつらさ、下くだる、勸進くせん





類下。金平牛房のやうな物う間子乾物のやうなところ  
 金 一それさ。モノ田舎芝居の定式どや持運の世話人  
 と盛方の人よりよく云付さるゝやい。あふ食ふ者計  
 たんと食て。海で食ふ者より菜づきりぬ。何でも  
 一人あ何程と當て先く盛盛るぐ。椽家具行  
 人あと極ぬバ物ぐをあめてあん移。傀儡子が白  
 粉をまらふ。兎角椽の中で白粉を搦也。さうして  
 ありより先てあぬねさ。世活人はあなまのどい才一

のいど。桂一さく芝居も筆を早くして物言の早く終  
 ちうどの子。山坂で日か暮ちやア。役者もも見物ぐあも  
 止あぬの。且イヤ今夜の舞臺の上でい張。一帳  
 度六のりちやで。高貴人が一人も傳つて。少あ格  
 別いど。且舞臺張ハあひるび。おろし芝居あふ下  
 いる者ニ三人有らり。所くくは芝居。一まどく桂まどい  
 奥のり。何處までい山をうつら。トあ方へ。中より来るハ  
 且くごころ。能く軽中。トあ方へ。中より来るハ  
 たまに之ほの立者おつれ。樂屋へいそぐ鼻唄交り。



さん。<sup>春</sup>ハア <sup>佳</sup>「あまは遠者が足ぢやあや <sup>春</sup>イヤあまの遠

者でもあつらひ <sup>佳</sup>「勧進元へりて <sup>○あま</sup>聖々々々 <sup>ウツ</sup>舞う子

せむぢやある年 <sup>春</sup>「サア捨もあつてあれど <sup>○あま</sup>外の危が

合点 <sup>佳</sup>「何のおまへ <sup>○あま</sup>外外は方丈貫目でま

のぢや。 <sup>ト</sup>夢のつよ <sup>○あま</sup>夢のつよ <sup>○あま</sup>夢のつよ <sup>○あま</sup>夢のつよ

ど <sup>○あま</sup>ど <sup>○あま</sup>ど <sup>○あま</sup>ど <sup>○あま</sup>ど <sup>○あま</sup>ど <sup>○あま</sup>ど <sup>○あま</sup>ど

と押合る <sup>○あま</sup>と押合る <sup>○あま</sup>と押合る <sup>○あま</sup>と押合る <sup>○あま</sup>と押合る

方へ <sup>○あま</sup>方へ <sup>○あま</sup>方へ <sup>○あま</sup>方へ <sup>○あま</sup>方へ <sup>○あま</sup>方へ <sup>○あま</sup>方へ



いづれにまされども也免の世のついで。是よりいふれ  
 のりてよ上なるまははひます。てはひふ。酒法なる者共  
 とは高し。由も様きむされ。各様方へも目とえ侍する  
 様か。りる。り。大候。よ。お。き。り。や。す。さ。そ。是。よ。ひ。く。え  
 と。り。ま。さ。さ。る。い。や。う。表。より。む。つ。れ。ま。し。る。大。丈。酒。本  
 吾。大。丈。り。次。を。割。竹。火。用。心。大。丈。り。次。を。旅。本。旗。記  
 大。丈。り。次。を。金。本。土。鍋。大。丈。り。お。き。り。く。次。行。薪。大。丈。り。  
 お。き。り。く。化。本。見。越。大。丈。り。次。を。二。條。後。次。佳。次。郎。り。

お。か。り。く。亀。次。泥。助。次。を。ひ。く。え。居。す。ま。さ。る。久。形。立。後。元  
 山。砂。子。郎。り。お。か。り。く。実。懸。流。川。土。左。衛。門。り。お。き。り。く。若  
 女。形。平。平。平。平。り。右。高。う。い。ま。さ。り。ま。す。れ。ども。け  
 より。四。目。と。え。侍。り。ま。す。大。丈。三。條。人。形。の。向。く。各。様  
 方。也。員。也。立。の。む。と。ま。希。ま。す。目。れ。又。所。り  
 五。仕。組。四。見。小。今。す。る。淨。瑠。璃。操。名。頭。ト。い。ふ。月。一。と。い。ふ  
 東。西。一。受。獲。推。名。歌。勝。開。二。ま。り。ま。り。は。五。五。隱。後。小  
 五。仕。組。四。見。也。入。す。す。次。て。中。と。ま。す。久。今。日。翁。後。

此後家と作りまして（りも甘やまといふ）姉背山婦女庭訓并四段目の切  
 と作りなす。あれどもすあぐさまでいさむらうござりま  
 されば（おのれ）は方よりおもしろせのち敵を打ちするまでいさむら  
 やふ（こゝろ）のむとと陽々隈までづらひのうとす希  
 上すす。其のうらよとやう。千ヨシ（ト養ひく）の目物  
 ●イヨ（おのれ）江戸口よとる。荒流と実貫るのめ。▲イヨ一投看  
 ぼり（いひ）松林（いひ）春どののり。姉背山でし（いひ）聴る（いひ）と五  
 一モノ作（いひ）雀（いひ）とら（いひ）り（いひ）い（いひ）あ（いひ）ま（いひ）ま（いひ）首門の畑の茶（いひ）

の木あか（いひ）雀（いひ）が三匹とら（いひ）ま（いひ）り（いひ）て五。とら畑（いひ）とて。モノ上  
 傍（いひ）羅（いひ）者勝（いひ）門（いひ）と奥（いひ）さるのやうか（いひ）んが茶（いひ）灌（いひ）ぶ（いひ）ら（いひ）か  
 ぬ（いひ）ぶ（いひ）か（いひ）何（いひ）でも（いひ）す。まもつ（いひ）移（いひ）物（いひ）で（いひ）版（いひ）き（いひ）林（いひ）とく（いひ）の  
 どう（いひ）シ（いひ）べ（いひ）ら（いひ）び（いひ）ら（いひ）う（いひ）り（いひ）あ（いひ）か（いひ）そ（いひ）り（いひ）や（いひ）ア（いひ）モ（いひ）ノ（いひ）先（いひ）代（いひ）萩（いひ）の（いひ）海（いひ）瑠（いひ）璃（いひ）  
 で。お（いひ）房（いひ）さ（いひ）る（いひ）の（いひ）忠（いひ）心（いひ）が（いひ）あ（いひ）つ（いひ）て（いひ）。チ（いひ）ア（いひ）悪（いひ）人（いひ）や（いひ）が（いひ）自（いひ）由（いひ）と（いひ）う（いひ）計（いひ）  
 しく（いひ）ご（いひ）う（いひ）も（いひ）あ（いひ）ん（いひ）秘（いひ）し（いひ）と（いひ）。チ（いひ）ア（いひ）あ（いひ）く（いひ）一（いひ）お（いひ）け（いひ）ご（いひ）でも（いひ）あ（いひ）つ（いひ）ら（いひ）や（いひ）  
 あ（いひ）ん（いひ）秘（いひ）し（いひ）と（いひ）。チ（いひ）ア（いひ）そ（いひ）と（いひ）で（いひ）ア（いひ）。自（いひ）身（いひ）に（いひ）版（いひ）イ（いひ）林（いひ）と（いひ）。あ（いひ）ハ  
 さま（いひ）狂（いひ）言（いひ）さ（いひ）我（いひ）が（いひ）る（いひ）に（いひ）輝（いひ）九（いひ）と（いひ）ふ（いひ）が（いひ）あ（いひ）る（いひ）と（いひ）友（いひ）達（いひ）中（いひ）と（いひ）。

ちび蟬丸ぢやア移くる千松さ 千松とわやけゆく  
 もゆるも別れて下。あれも咽ぶるけ子 咽じつれど  
 おはこ下六咽六移。あつくまへに息まの千松が。千松  
 が。一年まじもまじいんを移し引。ト少きあては酒さ 其  
 お局を移でもうのけり。声があてて鼻入けけるまう  
 ちびぢやうづらち けのせめのお夜さるの内へ何  
 とうふお娘さるが白雨しお夜そに浴布と冠うてお返  
 下。其お娘さる物移でも有へり尻うる糸織りて

ちびぢやうづらち物移でもあんうる。其糸とくづりして  
 是強か糸巻入まうそや惹の男が泣く物さ。トそ  
 ちび用づるへ風の切あてんへ けりさる風の化こ  
 のちまへん。其男の泣く糸巻汁持て娘がこらから  
 走りてまてし。け糸巻の糸が切まらてとよ風  
 づく。糸目が切てしあが控持ておねがまらとと考こ  
 ちび。其娘の上居て風の糸が鼻うこともあはは居て  
 ちび。切れる。ト切鼻うて。そまて其男が先へ馳切て。







福ぶら〜やい。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。ト見物する事も多し。

文化八年辛未冬十一月吉日  
文化八年辛未年来聘  
正使 金履喬 副使 李勉求

喜多川歌麿

判治晋瓶書

文化八年辛未冬十一月吉日

板元 三木屋喜九衛門

賣弘願人 全田所町 鶴屋金助

筆者 藍庭晋米

初日後編浮判で

初日後編で

打鞆の太鼓

ドロン〜

雷

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

又雷一声

豊<sup>とよ</sup>坂<sup>さか</sup>登<sup>のぼ</sup>る日<sup>ひ</sup>影<sup>かげ</sup>ゆつろみ<sup>つ</sup>て。あつた海<sup>うみ</sup>原<sup>はら</sup>波<sup>なみ</sup>風<sup>かぜ</sup>  
穂<sup>ほ</sup>ふ。韓<sup>かん</sup>國<sup>こく</sup>の舩<sup>ふね</sup>万<sup>まん</sup>祥<sup>じやう</sup>を唱<sup>とな</sup>え<sup>て</sup>。今<sup>いま</sup>年<sup>ねん</sup>對<sup>たい</sup>列<sup>りつ</sup>乃<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>に  
来<sup>ら</sup>伏<sup>ふ</sup>那<sup>な</sup>鳥<sup>とり</sup>。偏<sup>へん</sup>ふ。聖<sup>せい</sup>代<sup>だい</sup>の御<sup>おん</sup>功<sup>こう</sup>。陸<sup>りく</sup>牙<sup>が</sup>鷲<sup>じゆ</sup>ハ  
千<sup>せん</sup>歳<sup>さい</sup>舞<sup>ま</sup>ひ。渚<sup>さしづ</sup>ふ。龜<sup>かめ</sup>は万<sup>まん</sup>歳<sup>さい</sup>を壽<sup>じゆ</sup>く吉<sup>きち</sup>例<sup>れい</sup>不<sup>ふ</sup>任<sup>にん</sup>せ。  
君<sup>きみ</sup>もあつても願<sup>ねが</sup>上<sup>う</sup>たてまつりませ。蒙<sup>もう</sup>  
御<sup>おん</sup>免<sup>めん</sup>板<sup>ばん</sup>行<sup>ぎやう</sup>せむ。この韓<sup>かん</sup>客<sup>きゃく</sup>は行<sup>ぎやう</sup>粧<sup>じやう</sup>見<sup>み</sup>ぬ人<sup>ひと</sup>不<sup>ふ</sup>志<sup>し</sup>せ  
まのり<sup>まのり</sup>と猶<sup>なほ</sup>太<sup>たい</sup>平<sup>へい</sup>國<sup>こく</sup>恩<sup>おん</sup>おあやまがまを不<sup>ふ</sup>知<sup>ち</sup>短<sup>たん</sup>才<sup>さい</sup>の  
童<sup>どう</sup>蒙<sup>もう</sup>ふまのどく布<sup>ふ</sup>及<sup>およ</sup>くそ。仰<sup>おほ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>う<sup>う</sup>しめん中<sup>ちゆう</sup>。謹<sup>こん</sup>  
筆<sup>ふで</sup>を抹<sup>ぬぐ</sup>而已<sup>のみ</sup>

